2016年4月改訂

この最良執行方針は金融商品取引法第40条の2第1項の規定に従い、有価証券等の注文を最良の条件で執行するための方針および方法を定めたものです。

以下の最良執行方針に則り、価格のみならず、例えば取引コスト・スピード・執行の確実性等、 さまざまな要素を総合的に勘案して注文を執行するよう努めます。(最良執行義務の履行)

最良の条件で注文を執行するための方針

■発注市場について

当ファンドが行う有価証券等に係る売買注文は特段の事情がない限り、全て以下の要領で国内金融商品取引所および私設取引システムによる市場※に委託注文として発注します。

※当ファンドが選定する優先市場(SOR発注時は自動判定)

取引時間内:東京証券取引所(日本取引所グループ) 取引時間外: J-Market(ジャパンネクストPTS)

【当該市場を選択する理由】

金融商品取引所には多くの投資家の需要が集中しており、取引所外売買と比べ多くの場合、 価格の透明性・公平性・流動性、約定可能性、スピード等の面で優れていると考えられます。 その中でも最も流動性が高い市場で執行することが最も合理的であると判断されるからです。

■発注方法について

㈱SBI証券の取引アプリ「HYPER MOBILE」をインストールした携帯電話端末より発注します。 情報収集や注文を執行できる態勢を常に維持するために、あるいは第三者が勝手に注文を 執行することが無いよう、端末の充電状態やパスワードの取扱いには細心の注意を払います。

【当該方法を選択する理由】

従来型の携帯電話端末はスマートフォン等のタブレット端末と比べて性能面では劣りますが、 ディスプレイと操作部(テンキー)が独立しているため、操作性・正確性の面で優位性があり、 証券コードや発注単価、株数等を誤って入力するリスクを極力排除できると考えるためです。

■発注単価について

売買注文を発注する際は成行注文ではなく、当該銘柄の値動きや注文動向を勘案した上で合理的な買付/売却価格を試算し、注文の執行単価を指定する指値注文で発注を行います。但し、株価の急変等で取引を急ぐ場合や出来高が少なく取引が成立しない銘柄については、現時点の気配値を確認した上で速やかに成行注文に切り替え、10秒以内に発注を行います。

【指値注文を選択する理由】

成行注文は注文の執行スピードに優れる一方、意図しない価格で約定する恐れがあるため、平常時は発注単価を予め指定することで不測の損害を被るリスクを排除する狙いがあります。

資産管理・リスクマネジメントに関する方針

■50%ルール(リスク制限条項)

投資には利益獲得のチャンスと共に常に損失のリスクが伴います。そうした事業環境に対して、自己資金の大半や他人資本を投じることは、場合によっては資産の著しい減少や負債を招き、投資事業・日常生活の継続を困難にします。そのため、株式・債券等のリスク資産の買付には自己資金のうちの余裕資金を用い、またリスク資産の総額を総資産の50%以下に制限します。 (※トヨタAA型種類株式は実質的に元本保証の優先株式であるため、リスク資産からは除外)

■△5%ルール(資産保全措置)

株価下落やロスカットの実施により損失が拡大している状況では不安・焦燥感から多くの場合、冷静な判断力・思考能力を失っており、そうした心理状態の下で闇雲に取引を継続することは時として合理性を欠いたリスクの高い無謀な取引を誘発し、更なる損失を生む恐れがあります。そのため、株式の運用損失率(評価損失+確定損失)が保有残高の5%を上回った場合には、原則として5%を下回るまでの期間、全ての新規買取引および買付余力の増額を停止します。

■運用額総量規制(N225連動)

高値掴みのリスクを避け下落局面や安値圏で安定した買付を行うため、日経平均の価格帯に 応じた運用額の上限(保有株式+買付余力の総額)を設定し、市況に即したポジション調整・ 資金投入による適切な運用管理に努めます。(上限を超える運用資金はFD部門に戻し入れ)

日経平均価格帯別の運用額上限※(当日終値を基準とし翌営業日より任意適用)

N225価格帯	20000~	19000~	18000~	17000~	16000~	15000~	14000~	13000~	12999~
	OVER	19999	18999	17999	16999	15999	14999	13999	UNDER
運用額上限	50万	100万	200万	300万	400万	500万	600万	700万	790万

※上記数値は運用管理上の一つの目安であり、各銘柄の買付・保有・売却等は市況に鑑みて個別に判断します。 ※損益管理が厳格な日計り商いについては同規制の対象外とし、50%ルールの定める範囲内で取引を行います。